



卯辰山相撲場 年度末完成へ

青春土俵 青で彩る

石川県は、県卯辰山相撲場（金沢市）の整備イメージを固めた。コンクリート製の観客席を全てベンチ式とし、青をベースとした色使いで装いを一新する。会場に至るまでのアクセス道路、選手の控えスペースについては舗装を改修する計画で、近く工事に着手

し、年度末には完成する見通し。来年5月の高校相撲金沢大会（北國新聞社など主催）でお披露目される予定である。県卯辰山相撲場は1961（昭和36）年に土俵が完成した。同年から高校相撲金沢大会の会場となり、全国から集まった高校生力士が数々の熱

戦を繰り広げている。一方で、近年は施設の老朽化が目立っていた。コンクリートの一部が損傷している観客席は、耐久性や衝撃性に優れた高密度ポリエチレン製のベンチに変更する。前後の座席間隔を広げ、座席の位置を現状より高くす

ることで、観客が競技を見やすくする。ベンチの色は土俵に近い席をライトブルー、濃い席をブルーとする。車椅子の専用席を新たに設けるなどバリアフリーにも対応する計画で、役員席には強い日差しが当たらないようブラインドを設置する。

練習用の土俵近くにある選手控えスペースは水はけが悪く、雨天時はぬかるむことが多かったため、透水性の高い舗装とする。アクセス道路は、車椅子でもスムーズに通行できるように改修する。県卯辰山相撲場は、元横綱輪島（金沢高OB、第48回大会個人優勝）、元大関出島（金市工高OB、第75回大会個人優勝）、幕内の遠藤（金沢学院大附高OB、第92回大会個人・団体優勝）や十両の炎龍（同、第96回大会個人3位）ら名力士を多数輩出した高校相撲の「聖地」で、大規模改修は今回が初めてとなる。